



牛とまちを興すため、熱く語り合った買牛利一さん、村田勉さん、佐々木透さん、山内隆文市長、上村信志さん、松坂義雄さん（左から）

特集 新春座談会

今年は丑年

うし

牛興し

おこ

平成21年が幕を明けました。昨年はやませ土風館がオープンするなど、まちに新たな風が吹き込んだ一年でした。丑年の今年には本市で初めて全国闘牛サミットが開催されます。地域に根付く闘牛や短角牛の魅力を広める大きなチャンスです。今回の新春座談会は「牛興し」がテーマ。闘牛や短角牛にほれ込み、情熱を注ぐ5人の方をお招きして開催しました。本号では、このまちの牛の歴史や魅力が語られたその内容を7ページまでお知らせします。 ※敬称略

市長 新年明けましておめでとうございます。本日は丑年にちなみ「牛」に関わっておられる方々にお集まりいただきました。意見を交わしながら一緒に闘牛や短角牛の将来について考えてまいりたいと思います。

丑年の今年、「全国闘牛サミット」が初めて当市で開催されます。闘牛や短角牛をはじめ、当地域の魅力を大きくPRする絶好の機会と捉えておりますが、魅力を伝えるためにはわたしたち自身がその魅力を十分に理解していることが大切であると思います。まずは昨年の振り返りながら、それぞれの活動を紹介いただければと思います。

松坂 いわて平庭高原闘牛会は昨年、6月のつじじ場所、8月のしらかば場所、10月のもみじ場所と3回の闘牛大会を開催しました。東北唯一の闘牛大会ということで年々回を重ねるごとに県内外だけでなく他県からの観客も増えています。本年開催される全国闘牛サミットに備え、市の支援をいただき観客席の増設などを行いました。闘牛場も整備され、先のみみじ場所では

観客の皆さんにも大変よろこんでいただきました。

上村 短角牛の生産と肥育をしています。昨年は燃料の高騰により餌が高くなりました。経営も厳しい状態ですが国産オリジナルの餌にこだわり、母牛の胎内にいるときから出荷まで国産の餌だけを与えた短角牛を出荷しています。出荷した牛は短角牛の中で日本一の評価をもらっています。

今、生産部会では効率的に牛を太らせる栄養価の高い濃厚飼料に頼らずに、草などの粗飼料を中心に食べさせた牛を作ろうと取り組んでいます。粗飼料を中心に食べさせることによってより肉の旨みを引き出した短角牛が作れると期待しています。

佐々木 短角考房北風土という地球上で唯一の短角牛専門の精肉店を営んでいます。生産者と消費者の橋渡し役をしようと思っただけでした。短角牛の肉質の特徴を知ってもらった上で肉を買ってもらえるように取り組んでいます。短角牛はすばらしいものです。良いものにはそれに見合った値段と評価が必要です。

生産者のために買うときは1円でも高く、消費者のために売るときは1円でも安くできるような頑張っています。

村田 新山根温泉べっぴんの湯の昨年は地震により風評被害を受けるなど泣きながら走った一年でした。また一方では地域の人がマイマイガの除去作業を手伝ってくれるなど地域とのつながりを感じた一年でもありました。

べっぴんの湯では短角牛を使った宿泊プランを提供しています。昨年のプラン注文数は、おととしと比べて倍増。お客さんに接していても短角牛に注目が集まっていることを強く感じます。

貫牛 久慈市観光物産協会はまちのPRや誘客に取り組んでいきます。協会でも今年には牛をテーマにした観光に取り組みまなければと考えています。この地域を外に伝え、この地域にきたいという人を増やすことがわたしたちの仕事。久慈にはたくさん地域資源があります。特に牛、短角牛というものには個人的にも思い入れがあります。久慈の魅力により多くの人に伝える年にしたいと考えています。

エリート牧場ですくすく育つ短角牛